我思ふ

ESSAY

宗宮 重行

4

外国学会の学会誌 J. Materials Research の 編集副委員長をして

2000年12月3日私は正式にある外国の学会誌の編集から手を引いた。アメリカ Material Research Society からの出版誌 J. Materials Research (J.M.R) (第 4 回) の Editor, Associate Editor などである。JMR 出版以来 この雑誌の編集にたずさわって来た。この雑誌は普通の学会誌と異なる点もあるので、J.M.R. に投稿したいと思う方もこの雑誌の読者に多いと思うので感想を記することにする。

J.M.R. では Editor in Chief がアメリカ本部に 1 人いる。Associate Editor はヨーロッパ

に 1 人 日本 (アジア) に 1 人任命されている。Editor in Chief は J.M.R. の出版に関してすべての編集事務を総括している。

私の後任は日本大学理工学部電子情報工学科 山本寛教授にお願いした。

始めは年に 100 報告程度であったが、2000 年には約 200 報告 日本 韓国 中国 台湾 インド、シンガポール イスラエルなどから投稿があった。

毎年毎年投稿数は増加し、2000 年には約 200 件の投稿があった。前年に論文審査が通ったから今年も通過するとは限らず 昨年はよかったのに今年はどうして通過しないのかと文句をいわれた方があったのも事実である。ここ数年の平均論文採択率は約 50% である。

私の場合 論文受理後 2 週間以内に (1) 受理する、(2) 訂正を要求する、(3) 却下する の結論を出すようにといわれていた。速やかに論文の審査結果を出すことが最大の眼目にな

っていたと思う。200 年になって著者との通信に電子メールが利用され、スピードアップが行われている。(山本寛氏私信) 同じ大学内の先生で 2 時間以内に査読を下される先生、2 週間以内に査読を下さる方、1 月程で審査して下さる方 催促をしないと審査を下さらない人 催促しても公務多忙で審査が無理な方 また投稿して 1 ヶ月以内に投稿者に論文の審査結果を投稿者にしないと 早く審査結果をと Fax で要求してくる方などいろいろあった。世の中にはいろいろな方々がおられる事が、私が Associate Editor をしてわかったことである。

Associate Editor in Japan は編集委員会としては副委員長であるが 日本国内 (アジア地区といってもよい) においては委員長と同等である。何故ならば 日本に送られて来た投稿論文は J.M.R. の本部に送る必要はなく 日本で審査者をきめて 審査の結果を決定する。速やかに論文の結果を知らせるこれがこの方針が決定された理由と思う。

一方が私が関係している J. of Europ. Ceram. Soc. では日本とアメリカに 1 づつ、Japanese Co-

イラスト・外村晋一郎

ordinator, North American Co-ordinator が任命されている。これは Editor の Professor R. Brook が 論文を世界から集めるためにといっていた。3 年位前に Prof. Brook は日本から論文が年 10 報あればといっていたが、200 年は 6 月で既に 1 報告を越している。雑誌も年々厚くなり、会議の Proceeding も出版しており、それだけ原稿が集まっているということであろう。国際会議の Proceeding が雑誌の一部として出版されているのは読者としてはたすかる。日本からも アジアの他国からもよい論文を集められるということでは、その目的を達していると思う。日本の他に Korea, Taiwan, China, India などから原稿が送られて来ている。J.M.R. の場合 会議は Proceeding として雑誌とは別に販売され、既に 600 冊位出版されている。他に Material Letters などの審査を MRS-Japan の関係でしているがこの雑誌の場合には 本部より審査をして欲しいと 原稿と審査用紙がおくられてくる。各雑誌毎に 審査報告書の様式は異なる。

JMR の書類の一部をここに記載する。審査者の報告書は Referee Report だけの場合もあれば、別の Type 用紙に自分の意見を記入し、更に Referee Report と 種類の紙に記入している審査者がいる。(最近スピード化のために審査過程の一部に 出版業務に電子メールでのやり取りが増えている。山本寛氏私信)

審査者の名前を投稿者に私自信は知らせない方がよいとの判断から知らせなかった。投稿者から審査者の名前を教えて欲しい。直接意見を聞いて論文を作成したいとの電話もあったが 私は審査者の名前を知らせることをしなかった。また 3~5 人の審査者の名前を投稿者が記名して論文を投稿する方

もあったが 私は一切このような提案をとりあげなかった (こうした基本方針は引き継がれているようである。山本寛氏)

各学会 各雑誌ごとにそれぞれ特徴がありまた水準も異なり 審査の難易度も異なる。

私自身は論文の投稿についての学術誌の選び方は、

- 1) 早く審査が終り 印刷論文を出版する学会誌を選ぶ。
- 2) 権威があるといわれている学会誌を選ぶ。
- 3) 学会誌の審査は絶対的なものでない。審査委員により意見を異にする。故に論文を却下されたからといって悲観することはない。どんなに立派な論文であっても 審査者と意見を異にする以上文句を言っても始まらない。別の学会誌を考えればよい。

いまは JMR の仕事を日本大学山本寛教授をお願いし ぼつとしている。長期の海外出張は編集の仕事のためにしなかった。これらが現在の私の JM 編集副委員長を終えた後の感想である。

謝辞

山本寛教授 (現在の JM 副編集委員長) に最近の事情について御教示を得た。ここに感謝する。また私の任期中 いろいろと拙文の査読を下された先生方に感謝する。